



第 38 回 例会 報告 (4月11日)

【 出 席 報 告 】

・ 会員数	52名	・ 出席数	32名	・ 欠席数	20名
・ 当日出席率	65.95%	・ 前々回修正出席率	100%		

< 欠席会員 > 原、檜垣(賢)、檜垣(巧)、平田、加賀、川上、木村、桑森、宮本、光藤、村上(裕)、大澤、竹田、吉田
 [免除会員] 青野、原田、飯、松本、白石、八木
 <3/28 欠席補填>(3/18 今治北)冠、近藤、西信、松木、宮本、吉田、吉 (4/1 今治北)原、桑森、尾越、田中、矢野
 (4/9 今治南)檜垣(巧)、竹田

会長報告・松木徹夫会員、村上修三会員、重松宗孝会員へ関ガバナーエレクトより委託状が届きました。

幹事報告・今治南 RC の記念誌ができました。

親睦活動委員会・入会記念スピーチ・菅主浩会員 (在籍 11 年): 国際ホテルであった音楽例会の日が入会式でした。まだ「歴史と伝統ある」という言葉を知りませんでした。

大分類別卓話 (大分類:繊維・衣料 小分類:タオル製造)

平尾浩一郎会員「今治の織物業について」: 今治のタオル業界は現在約120社あり、生産量1万トン(原料綿糸換算)、生産額200億円(市場価格だと600億円)。大阪泉州とシェアを二分し、両者で国内流通量の約19%を占める。残りは輸入品。今治は高品質の産地として知られるが、これは7年前に始めた「今治タオルプロジェクト」が起点になった。それまでもいいものを作っていたが、ジバンシィ、プレイボーイといったデザイナーブランド品であったため、産地の今治は知られていなかった。ニクソンショック後の1972年以降、国産タオルは低成長期が続いたが、バブル崩壊後は生産量が減り、輸入タオルが急増した。危機的状況の中、2000年に行った繊維セーフガード発動要請がプロジェクトの契機となった。結局、セーフガードは発動されなかったが、貿易自由化の流れの中、国から「あなたたちは何をするのか」と問われ、必死で考えた末、「今治はいいものを作っている。これを知ってもらおう」との結論に達し、06年からブランド構築事業を始めた。シンボルマーク作成、技術を引き継ぐ制度の創設、海外への進出、タオルソムリエも話題になったが、なぜ奇跡のようなことが起きたか。佐藤可士和氏の知名度でマスコミに取り上げられ、NHKのクローズアップ現代、テレビ朝日の報道ステーションで放送され大きなインパクトがあった。事業を始める前、今治タオルの認知度は約36%だったが、開始2年後目標の50%を達成、昨年は71%になった。食べ物に関する別の調査で比較すると、松坂牛92%、長崎カステラ86%で、71%という数字は広島カキ、沖縄黒糖と同程度。工業製品として驚くべき数字だ。生産額も増えてきた。プロジェクトスタート時と比べると10倍の売り上げ。東京青山にアンテナショップを展開するなどしている今治繊維リソースセンターは02年当時、2億8000万円の売り上げに対し4億6000万円の負債があったが、今は9億円を売り上げ1億円の利益を生み出している。一方で今治織物のもうひとつの流れの中にあつた今治織物工業協同組合は昨年9月破産の申し立てを行った。私はその総会で議長を務めた。歴史を感じる出来事だった。



次 回 例 会 (4月18日)

【 新世代奉仕委員会アワー 】

< 会員誕生日祝 > 原 竜也氏 (4/19) 八木 祐氏 (4/20)
 < 配偶者誕生日祝 > 矢野 暢生氏 (4/24) 桑森ひとみ氏 (4/24)
 < 入会記念日祝 > 越智 健司氏 (4/18) 八木 祐氏 (4/19)

[笹]